

審査員賞

中学生部門

愛知県名古屋市長古屋市

名古屋市長古屋山中学校2年

丹羽 実優

ピンク

私の心に残っている言葉は、「ママも薄いピンクが好きだよ」という言葉です。

小学校低学年の頃に友達との帰り道で、少しいじわるな子に「実優ちゃんって存在感ないね」と言われました。

私はその時「存在感」という言葉の意味が全くわかりませんでした。でも私は少し嫌なことを言われたと思いい不安になりました。その後家に帰ってから私は母に「存在感が無いってどんな意味」と聞きました。

その時母はとても困ってしまっただけです。私が傷付かないように随分言葉を選んだそうです。

「実優は存在感のある色って何だと思う」

「赤とか青かな」

私はこう答えました。

「じゃあ、その反対の存在感の無い色って何だと思う」

「薄いピンクと水色と薄むらさき」

「実優はどっちの色が好き」

「薄いピンクだよ」

「ママも薄いピンクが好きだよ」

私はそれを聞いてなんとなくほっとしました。認めてくれる家族がいるから自分のことを好きになれたので、無理して自分を変えなくてもいいのだと思うことができました。その後同じようなことを言われた時に、自分は自分なのだから変わる必要が無いと思うことができたのでその言葉は自分の力になっています。